

J **apanese text**

2019年 春/夏号 日本語編

デザイン

デザインラボ

文様

—— **極まりの静まり**

文=原研哉 撮影=西山航

撮影協力=株式会社タニハタ www.tanihata.co.jp/english/

p.038

精緻であるが、複雑さを競うのではなく、さらりと仕上がった風情に、日本の木組みの美しさがある。「組子」と呼ばれる木組みの技術は、欄間や衝立て、引き戸など、室内空間の間仕切りに用いられてきた。中国でも透かしの間仕切りは目にするが、背景にある美意識がやや違う。中国の場合、精緻を極めていくことが、皇帝の権威や位の高さなど、力を象徴するオーラを発する方向に向かっているのに比べて、日本の組子はどこか、精緻への欲求を抑制し、技の極まりの中にも、簡潔さへの静まりを感じるのである。平たくいうと、複雑すぎる組子は野暮なのかもしれない。注文主が権威者というより、数奇や粋を極めようとする趣味人だったからかもしれない。もちろん、簡潔といっても技術が甘いわけではない。複雑さを要求されれば、どこまでもやれる技を備えつつ、程よくそれを抑制していくところに組子のエレガンスがあるように思うのである。

組子

早ければ7世紀、遅くとも12世紀には日本に存在したと言われる木工技術のひとつ。細くて薄い「組手」と呼ばれる部材を、釘などを使わず、はめ込みながら組み合わせることで、精密な文様を編み出していく。髪の毛ほどの狂いでも木が組み付けられなくなるため、美しい組子を仕上げるには相当の熟練が必要。木は薄くなるほどクセが出やすくなり、材の選別眼も求められる。かつては障子や欄間、ふすまなどに多く用いられたが、近年、壁や天井装飾、照明器具などへも、活躍の幅を広げている。

原研哉 (はら・けんや)

デザイナー。「もの」のデザインと同様に「こと」のデザインを重視して活動中。ものの捉え方や価値観を更新するプロジェクトを多数手がける。長野オリンピックの開・閉会式プログラムや、愛知万博の公式ポスターなど日本文化に深く根ざした仕事も多い。2002年より無印良品のアートディレクター。2017年にオープンしたJapan House プロジェクト総合プロデューサー。著書に『デザインのデザイン』、『白百』ほか多数。
www.ndc.co.jp/hara/

(写真)

左ページ、左から：角麻^{かくあさ}、胡麻^{こあさ}、井筒割菱^{いづつわりし}、青海波^{あまなみ}
右ページ、左から：積石亀甲^{つみいし}、竜胆

組子の文様は、日本に自生している植物や自然、道具などが中心。亀甲などの縁起の良いデザインや、厄除けの模様とされてきた麻の葉など、祈りや願いがこめられたものが多く残る。斜めの線を基本とした菱組子と、水平垂直の線を基本にした格子組子の2種に大別される。組子細工で表現できる図柄はほぼ無数にあり、小さな文様の塊で、大きな一つの絵柄を表すのも最近人気の傾向。

建築

—— **裏町の楽しさを引き継ぐ高層ビル**

写真=阿野太一

文=佐野由佳

p.040

再開発が進む東京・渋谷の街。百貨店や商業ビルのある繁華街として発展してきた渋谷駅の北側エリアに対し、渋谷川に沿って雑居ビルがひしめきあう裏町的な南側エリアの、新たなランドマークとなるのが「渋谷ストリーム」だ。

地下4階地上35階建ての大規模複合施設で、東急東横線の渋谷駅のホームや線路などを、地下に移設した跡地に建設された。国道246号線と明治通りが交差する角地、明治通り沿いから渋谷川をまたいで行くと2階の貫通通路に向かう大階段がある。街がそのままビルの中に流れ込んでいくようなつくりになっている。屋内でありながら風が通り抜ける貫通通路の両脇には、さまざまな飲食店が軒を連ね、店の

中から、外から、大通りを行き交う車や川沿いの雑居ビルの看板などが見え隠れする。

デザインアーキテクトをつとめたシーラカンズアンドアソシエイツの赤松佳珠子^{かずこ}さんは「雑多な居場所がある楽しさや、小さなビルが並ぶヒューマンなスケール感のあるこの街らしさを意識して、閉じたビルにならないようにプランを考えました。一本裏にある街のよさ、元々そこにある記憶を引き継ぐ場所であることを大切にしました」という。人と街をつなぐ、風通しのよい高層ビルだ。

右：1970年代から90年代にかけて、駅を中心に商業の街として発展した渋谷。2000年代に入ってから、駅周辺の再開発プロジェクトが長期計画で進んでいる。そのなかのひとつに「渋谷ストリーム」がある。恵比寿、代官山といった、もうひとつの賑わいを見せる街につながるエリアでもある。

上：人の行き交う活気や賑わいを象徴するように、動線となる階段やエスカレーターなどをイエローで統一。

下：大通りから渋谷川を渡ると大階段がある。階段の段差の隙間を、水の流れの続きのような明かりが点滅する。大階段の向こうに店舗が入った商業ゾーンの貫通路がある。

設計者：東急設計コンサルタント

デザインアーキテクト：小嶋一浩＋赤松佳珠子／シーラカンズアンドアソシエイツ (CAI)

shibuyastream.jp

www.c-and-a.co.jp

プロダクト —— 生活に和の花を添える

撮影＝武蔵俊介

文＝編集部

p.042

日本の四季を美しく彩る花々。「花を愛でる」という言葉があるように、日本人は古くから花に親しみをもち、慈しんできた。昔の歌人が残した和歌には花の名が多く登場し、花に様々な

思いを託している。そうした心の機微に想いを馳せ、誕生したのが「酒見椅子店」の monaca stool。名前の通り、和菓子のもなかにインスピレーションを得たデザインは、丸みがあって可愛い。モモ、ウメ、ツバキ、サクラ、キキョウ、キクの日本を代表する全6種の花が、色鮮やかに室内を飾る。

約半世紀近く、伝統を守りながら、長く大切に使われる家具を作りつづけている椅子専門店が作るスツールは、一点一点、ハンドメイドで製作。そのため、完成までに1～2か月ほどかかるが、お部屋の雰囲気に合わせて、座面の色はもちろん、木材をウォールナットとオークの2種類の中から選べるのが嬉しい。座面は直径約28cmと小ぶりだが、安定感のある掛け心地で、持ち運びにも便利。部屋に花を飾るように、お花のスツールを置いてみてはいかがだろうか。

ウメ

ウメは、サクラやモモ同様、日本を代表する落葉花木。1月から3月に赤や白、ピンクの花を咲かせる。写真の座面の色は朱色、他に白銅色がある。

キク

キクは秋を代表する花。皇室の紋に定められていることもあり、古くから特別な存在で、品位や品格の象徴とされてきた。写真は黄色、他に紫色がある。

サクラ

3月から4月にかけて花を咲かせるサクラは、春を1年の節目と考える日本人にとって、新たな始まりを告げる花。座面は桜色と茶色の2色。

キキョウ

6月から10月に咲く花で、昔から秋の風物詩と言われているキキョウ。星形をした花びらがかわいらしい。写真は鼠色、他は紺色がある。

ツバキ

冬を代表する花で、赤い花に、艶やかな緑の肉厚な葉が特徴。茶席によく用いられることから、「茶花の女王」とも呼ばれる。座面は草色と橙色の2色。

モモ

モモは3月下旬から4月にかけて開花し、花を咲かせた後、たくさんの

実をつけることから、生命力の象徴とも言われる。座面は紅梅色と鉛色の2色。

「monaca stool」（高さ45×幅28×奥行き28cm）ウォールナット、オーク共にすべてのサイズ各2万4600円。座面の色は各デザイン固定の2色から選べる。高さは30cmと45cm。※ハンドメイドのため、サイズは多少の誤差がある場合があります。

酒見椅子店

福岡県大川市榎津水落 79-1

sakemi.co.jp

shop@sakemi.co.jp

プロダクツ —— 日本の香りをしのばせる

撮影＝大道雪代

文＝編集部 文協力＝賀来潤恵

p.043

京都の仏教美術の専門家集団「まつひせそうりんぶつしよ松久宗琳佛所」による、「香りまもり」。江戸時代から続く京都の老舗香木専門店「山田松香木店」特製の天然香が封入され、おまもりとして、また文香や防虫香として、日常で上品な香りが楽しめる。絵柄は極楽浄土に住むと言われる“六鳥”。仏法を説き広めるために、阿弥陀仏が姿を変えて現れる6種の鳥で、例えば写真手前、双頭の「くみょうちよう共命鳥」は、命の平等やつながりを体現している。截金師・きりかね松久真やさんのデザインで、その優雅な色彩を生かすべく、商品は活版印刷で丁寧に刷られている。写真の6種セット（箱付き）は5000円。単品は各800円。

京都あろり

京都市中央区御幸町通三条下ル海老屋町 318（松久宗琳佛所内）

matsuhisa.thebase.in

プロダクツ —— 新しい夫婦箸で幸せな毎日を

撮影＝西山 航

文＝編集部 文協力＝白川愛子

日本の伝統工芸を用い、職人と共作した箸を数多く販売する箸の専門店「銀座 夏野」から、螺鈿細工職人の技巧を凝らした優美な一膳のご紹介。多彩な桜の花びらがきらびやかに舞い散る意匠の「螺鈿細工利休箸」は、京都で唯一、青貝を使った螺鈿細工を専門に行う「嵯峨螺鈿 野村」製の特別な箸。世界遺産にも使用されている貴重な夜光貝を含む5種類もの色の違う貝から、それぞれ6パーセントしか採取できない色や輝き具合の最も美しい部分のみを、幅1mm程度の花びら形の螺鈿として施した。絆を深める縁起物と言われる箸は、贈り物にも最適。男性用24cm、女性用22cm、各1万7000円。

銀座 夏野

東京都中央区銀座 6-7-4 銀座タカハシビル 1F

www.e-ohashi.com